

事故当事者が感じたキーワード ～農作業事故の思わぬ影響～

「農作業事故原因・影響分析調査」結果より

農業者が事故を「自分事」として考え
対策をとってもらえるよう伝えてほしい14点

事故当事者や事故ゼロに取り組む集落営農法人代表者から聞き取った貴重な経験談をキーワードとしてまとめました。

次の事故当事者にならないために、事故防止に努めるポイントとして様々な機会を通して農業者の皆さんに伝えてください。

令和5年2月13日

一般社団法人 全国農業改良普及支援協会

事故事例調査の協力要請と結果利用上の前提

事故調査に関する協力要請

生産品目、地方、事故要因、死傷区分について、幅広く協力依頼を行った。

また、影響の広がり方を考えて、地域の担い手がいなくなった事例の協力を求めたが、今回の調査では協力を得られなかった。

結果として、調査に御協力をいただいたのは、リカバリーができて、経営が継続できた事例のみであった。

以下の情報は、これらのことを前提として活用するようお願いする。

事故事例調査対象の概要①

調査件数 16事例(6県)

部門別 主穀作 5(内 集落営農法人等 4)、
野菜 3、果樹 2、茶 1、さとうきび 1、
畜産 4

事故の死傷別 死亡事故 1、重症 6、軽傷 5

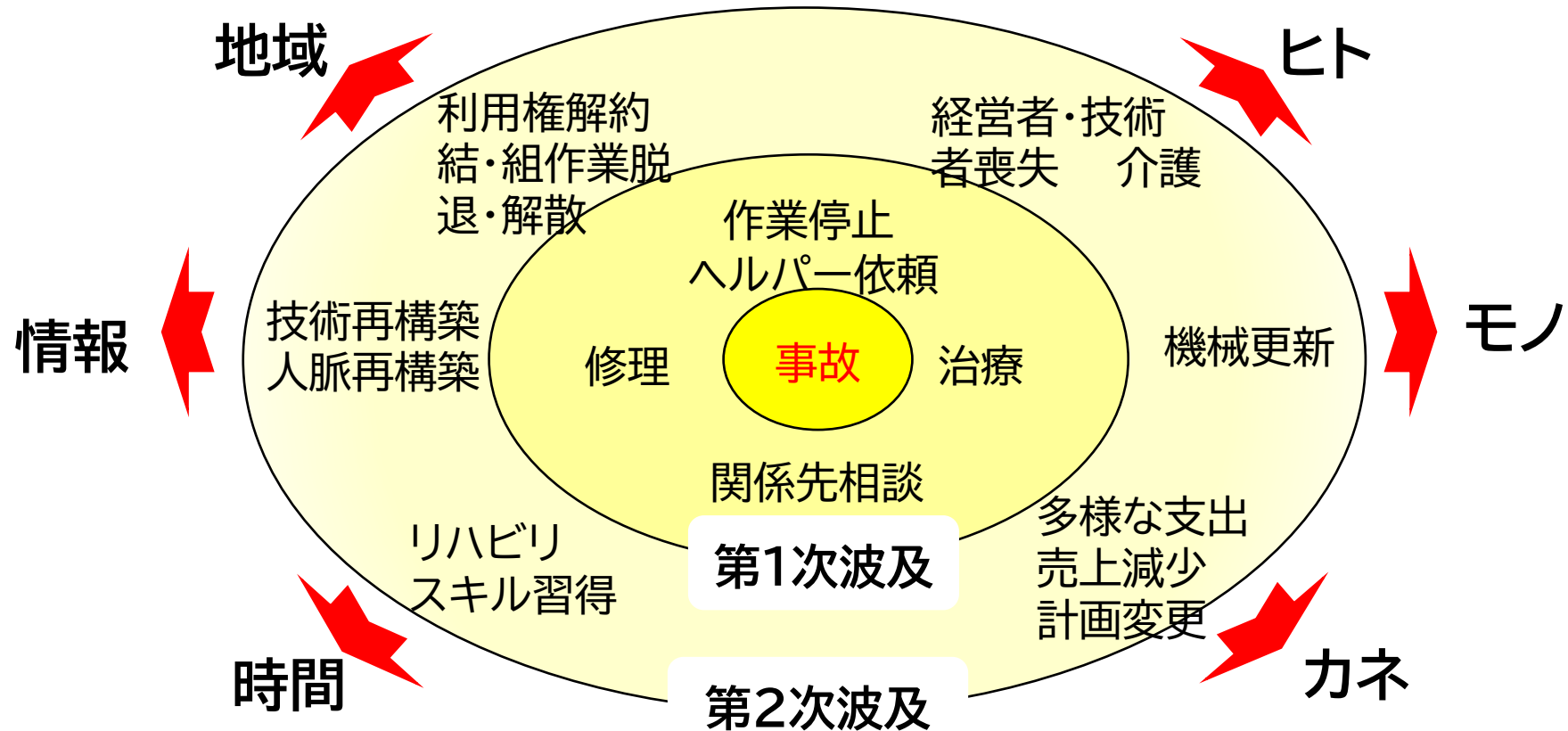
事故要因 農業機械 8、施設内 1、作業器具 3

※一部調査未了の事例を含む

※ 集落営農法人等については、事故発生による地域への影響の大きさや、日頃の従事者に対する安全指導状況と効果を確認するため調査対象に入れた。

事故影響の波及イメージ

経営の5要素+地域に対して及びます



金銭的負担

- ・ 売上高減少 最大1,802万円
- ・ 予定外の支出 最大 216万円
(ヘルパー賃金、家族による介護費等)
- ・ 家計・家族への影響
他産業従事家族が急きょ就農し農外収入が無くなった
- ・ 経営計画への影響
作業の単純化が必要になったため、新作物導入を中止した
障害者であっても作業できる環境整備が必要になった

事故事例調査結果の概要③

人

- ・ 労働力

入院期間 数日の通院～リハビリ含めて4か月間入院入所

後遺症 無し～ケガ部位以外のしびれ(数か月から継続中)
～片腕欠損

代替者 家族、親戚、シルバー人材、ヘルパーが必要になった。

- ・ 技術的ノウハウ

- ・ 人脈等情報 継承に時間と手間がかかる。
死亡事例ではこれらが断絶された

地域への影響 今回の調査事例では確認できなかった

想定される影響

- 地域の担い手であった当事者から借地・利用権等の解約があり、場合によっては耕作放棄地が増加
- 結・共同作業ができなくなり、場合によっては、廃業の連鎖（今回の事例では軽傷や、けがとりハビリ期間が共同作業の時期とずれたため影響が無かった）

事後対策

- ノウハウやヒヤリハットの共有（従事者、同業者）
- 機械の更新、安全装置の設置、軽労化装置の導入、安全な器具への変更
- 朝礼の実施、休憩の徹底、ラジオ体操の実施
空調服の貸与
- 労災保険・傷害保険の加入・見直し

キーワード

予想以上の出費だった



予想外に要したお金は「家族による介護」に伴う旅費や宿泊費。



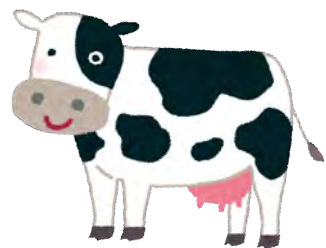
- ・ 大きなケガを負った場合、都市部の病院に搬送されるケースが多い
- ・ 事例では、野菜掘り取り機に挟まれた事故により、両腕を骨折等
- ・ 遠方の病院での約1か月間の入院と3か月間のリハビリ生活
- ・ 入院やリハビリ期間中は家族のサポートが必要なため、2重生活となり、家族の旅費や宿泊費が発生（合計115万円）

- 本人の医療費は、高額療養費制度によりカバーできるが家族による支援に係る費用は全額自己負担となることから、万が一に備え、諸経費を含めた費用をカバーする保険等への加入が必要
- 当然、作業機には必要な安全装置の装着等により、事故を未然に防止することが最も重要

キーワード

もし家族によるリカバリーがなかったら

畜産など毎日の作業が必要な部門は、代替者の確保がまったなし



- ・ 酪農では、搾乳や給餌など毎日の作業が必ず発生
- ・ 事例では、地下式サイロへの転落により両足骨折(全治2か月)し、経営主が作業に従事できなくなった。
- ・ 幸い息子が農業大学卒業目前というタイミングであったため、労働力を補うことができた。
- ・ 仮に、息子が就農できなければ、ヘルパーを雇う必要があり、440万円の出費につながった可能性(廃業していた可能性も)



- ▼
- 日頃から作業内容のリスト化やタイムテーブルの共有化など、リカバリーしやすい環境整備が重要
 - 地下式サイロ周辺の滑り止めや柵の設置、ホイストのスイッチを安全な位置に配置することにより、事故を未然に防止することが最も重要

キーワード

近くに人がいなかったら



スマホを持っていても、両手が使えない事故もある。



- ・ さとうきびの事例では、調苗機(苗用にさとうきびを切断する機械)のカッターで右腕を切断(3週間の入院)
- ・ 事故当時たまたま近くに人がいたことで迅速に止血・救急車要請
- ・ 事故当事者が基本的な止血法を理解していたことで、迅速な止血につながった。

- ▼
- 単独作業の場合、スマホのGPS機能の活用や、家族等の目に触れる所にスケジュールを掲示するなど、万が一の場合でも早期発見につながる工夫が必要
 - 当然、作業機の危険個所から目を離さないなど、事故を未然に防止することが最も重要

キーワード

早めに作業を切り上げていたら



疲れを押して作業を続けた結果、収穫期間の終盤に事故発生



- ・ 大型野菜経営(キャベツ等)で、高齢の従事者が大型機械作業
- ・ 事例では、疲れを押して長時間のトラクターによる耕起作業を終えた帰路、農道から脱輪し、転落した際に左足首を骨折(2週間の入院)
- ・ 疲れによる集中力の欠如・ハンドル操作ミス、速度超過が原因

- 事故当事者は「時間に追われて作業をしない」、「一連の作業の終わりが要注意」と反省、作業の区切りは体調を最優先することが重要
- 当然、早め早めの休憩をとること、作業者同士でお互いの体調の確認や声掛けにより事故を未然に防止することが最も重要

キーワード

危ないと思った点をすぐに直していたら

事故当事者の多くに「もし(if)」がある。



- ・ 茶の事例では、以前から袋取り式の摘採機をコンテナ式に代えなければと考えていた。
- ・ 袋取りでは、収穫した茶葉の袋をトラックの荷台に人力で積上げるために体の負担が大きい。
- ・ 事故は、梅雨の時期、普段より水分が多く含まれ、袋の重量が通常の2倍の40kgほどに重くなったが、荒茶加工の1ロット分を急いで摘採し、無理な作業で肘に負担がかかり靭帯損傷(全治3か月)。
その後の収穫を断念し、対前年比1,802万円の売り上げ減。



- リスク軽減の取組は計画的に、必要と思ったら速やかな対応が重要
- 当然、日頃の機械の点検で異常の発見・修繕と、安全装具やアシストスーツの着用など安全や健康第の行動で、事故を未然に防止することが最も重要

キーワード

何としても生き残る



危機に直面した時、この考えを持てるかが明暗を分ける



- ・ 酪農・乳製品販売会社の経営者が当事者になった事例
ロールベラーのトワインに巻き込まれた事故で右腕を切断
自ら、残った作業着の腕部分で止血、妻に救急車要請の電話
切断された腕の再接着は早々に断念し早期復帰を選択(全治約1
か月)
- ・ 事故後、牧場内を点検し、従業員とともに障害者であっても作業で
きる環境づくりに取り組む
- ・ 飼料高騰など経営環境が悪化した現状に対して、何としても生き残
る信念で冷静に対応



- けがを切っ掛けに、経営のデザインを再検討する機会ととらえ、安全を重視した作
業環境の整備が必要
- 当然、機械のトラブル時にはエンジンを確実に停止し、事故を未然に防止すること
が最も重要

集落営農法人代表者に対する調査の経緯

集落営農組織は全国で14,364、このうち法人は5,694と、農業の重要な担い手である。
(令和4年度集落営農実態調査(令和4年2月1日農林水産省調べ)より)

一方、法人以外の集落営農組織は、指揮命令系が不明瞭であるなど安全対策や事故が起きた際の対策が脆弱と考えられる。

そこで、集落営農法人に対する安全対策や万が一への備え等の調査を行った結果、法人以外の集落営農組織のほか個別経営の農業者にも重要な以下のキーワードを得た。

集落営農法人代表等が行っているキーワード

キーワード①

事故ゼロが一番の低コスト

- 土地改良事業の工事委員長の経験から、建設業の事故ゼロの取組を目の当たりにして重要性を痛感。
- 集落営農法人としても重点的に取り組む。

キーワード②

けがをすると地域に迷惑をかける

- 地域の担い手となった以上、けがで休むことが自分だけでは済まないことを自覚。
- 地域に迷惑をかけたくない一心で事故防止に取り組む。

集落営農法人代表等が行っているキーワード

キーワード③

ヒヤリハットを同業者と共有

- ・ G.A.P.(農業生産工程管理)の団体認証に取り組み、構成員同士がヒヤリハット事例を共有化し、安全対策に活用。
- ・ ヒヤリハットの共有は恥ずかしいことではないと全構成員間が理解。

キーワード④

ラジオ体操をするようになった

- ・ 水稻作業委託者に納める飯米向けなど紙袋の扱いが大量にあり、それが主な原因でぎっくり腰が多発。
- ・ ラジオ体操や注意喚起、リフターなど軽労化装置の導入が効果的。

集落営農法人代表等が行っているキーワード

キーワード⑤

リスクを先に減らす

- ・ 繁忙期の終わり掛けや機械の想定使用年数の終わり掛けに機械の故障や事故が起きやすいとの経験則から、先手先手に点検・整備や更新をしてリスクを削減。

キーワード⑥

気づかないことを教えて気づかせることが重要

- ・ 経験の浅い従事者は経験者からみて危ないことを平気で行う。
- ・ 作業現場を巡回しよく観察して注意点を理解させることが重要。

集落営農法人代表等が行っているキーワード

キーワード⑦

急ぐ、焦るは事故の元

- ・ 従業員に対して焦らせないことが重要。
- ・ 天候も考慮し、無理の無い作業スケジュールを組むことで、事故防止につながる。
- ・ プレッシャーはメンタル面からも要注意。

キーワード⑧

外部の人も含めて安全使用講習会を開催

- ・ 草刈を地域の人に任せていたり、法人従事者以外が作業に参加する法人では、地域の人たちも含めて農業機械安全使用講習会を開催し、事故防止に努めている。
- ・ 安全にできる「だろう」が事故を誘発。